

聖武帝の彷徨の跡を訪ねて

猪名川万葉の会

平成 27 年 10 月 14 日



恭仁宮跡復元図



740 年 恭仁京に遷都 (復元模型)
746 年 恭仁宮大極殿を国分寺に施入



元日 朝賀の儀式の「宝幢(幢旗)」の遺構発掘 (復元イメージ)



大極殿の礎石

聖武天皇と光明皇后 (現地ガイドさん)



奈良県奈良市



平城京大極殿



平城京 朱雀門



淀川の支流・木津川 (いすみがわ)

「瓶原わきて流るる泉川いつ見きとてか恋しかるらん」中納言兼輔 (新古今集)



聖武天皇は三方を急峻な山に囲まれ南に大和の外港でもあった泉川(木津川)の水運を取り込めるこの地に宮を建立

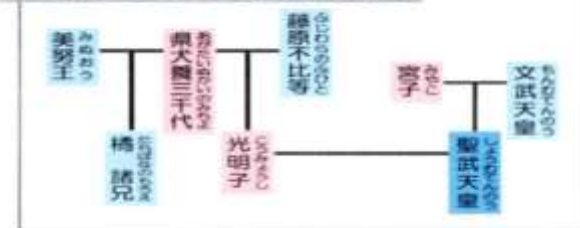


今造る久邇の京は
山川の さやけき見れば
うべ知らすら
大伴家持 (巻6-1037)

三香の原久邇の都は
荒れにけり大宮人の
うつろひぬれば
田辺福麻呂 (巻6-1060)



聖武天皇をめぐる人物関係図



和束川



地元で『太鼓山』と呼ばれている茶畑の中の『安積親王陵墓』

わが大君 天知らさむと
思はねば凡にぞ見ける
和束山

あしひきの 山さへ光り
咲く花の散りぬるごとき
我が大君かも
大伴家持 (巻3-476・477)

滋賀県 甲賀市 信楽町の 黄瀬(きのせ)と 宮町

甲賀寺跡と礎石



紫香楽宮跡から出土した木簡にかかれた万葉仮名の歌



信楽町のガイドさん

宮町遺跡 (復元図)



阿佐可夜麻 加氣佐閑美由流夜真乃井能 安佐伎己、呂乎 和可於母波奈久尔
あさかやま かげさへみゆるやまのみの あさきこゝろを わがおもはなくに
安積山 影さへ見ゆる 山の井の 浅き心を 我が思はなくに (巻16-3807)